第38期　富士見市民大学公開講演会

あの時を忘れずに　ともに復興へ！

平成28年2月6日(土)　13:30～16:00　鶴瀬コミュニティセンターホール

講師　東松島市行政専門員　小野弘行 氏

３，１１東日本大震災、当時の状況、現在の状況について「あの時を忘れず、ともに復興へ」をテーマにした講演を開催した。

被災地から当時「災害対策本部総務部長」として陣頭指揮をとり尽力された小野弘行氏「宮城県東松島市行政専門員」を講師に迎え講義をいただいた。退職後も復興に携わっておられます。

スライドでの説明で富士見市の職員、消防隊の活動に対しての感謝を表明されていました。

災害時の訓練は被災時に住民が主体的に行動するための訓練などを実施するレベルになっているとの説明がありました。当市もイベント型の訓練から実際の災害を想定した訓練が必要と感じました。

富士見市は東松山市と相互の支援をする「災害時相互支援協定」を結んでおり、支援に携わった安心安全課の岡課長から富士見市の支援の内容の説明がありました。

　コーラスは歌音(カノン)３９名の合唱は“メモリー、♭百万本のバラ、♯道、♪津軽のふるさと、男性だけの合唱で♭野風増、♯この街で“を先生の指導で歌い、最後に♭花は咲く
を全員で合唱しました。

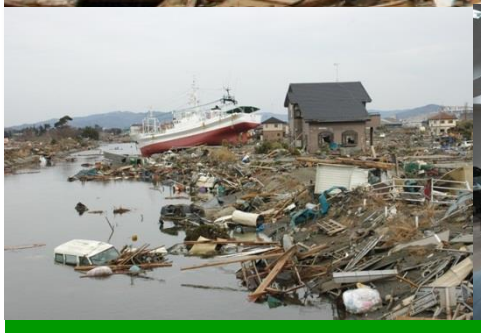
来場者（スタッフを含む）９８名（受講生２６名、一般市民７２名）アンケート回収率は４４、８％（４４名）であった。
残念ながら受講生の来場者が少なく反省課題を感じました。

ご協力いただいた、アンケートは今後の運営に役立させていただきます。

参加された皆様に募金へのご協力いただき、また現地からの「物産品」販売についてもお陰様で完売となりました。　感謝！！

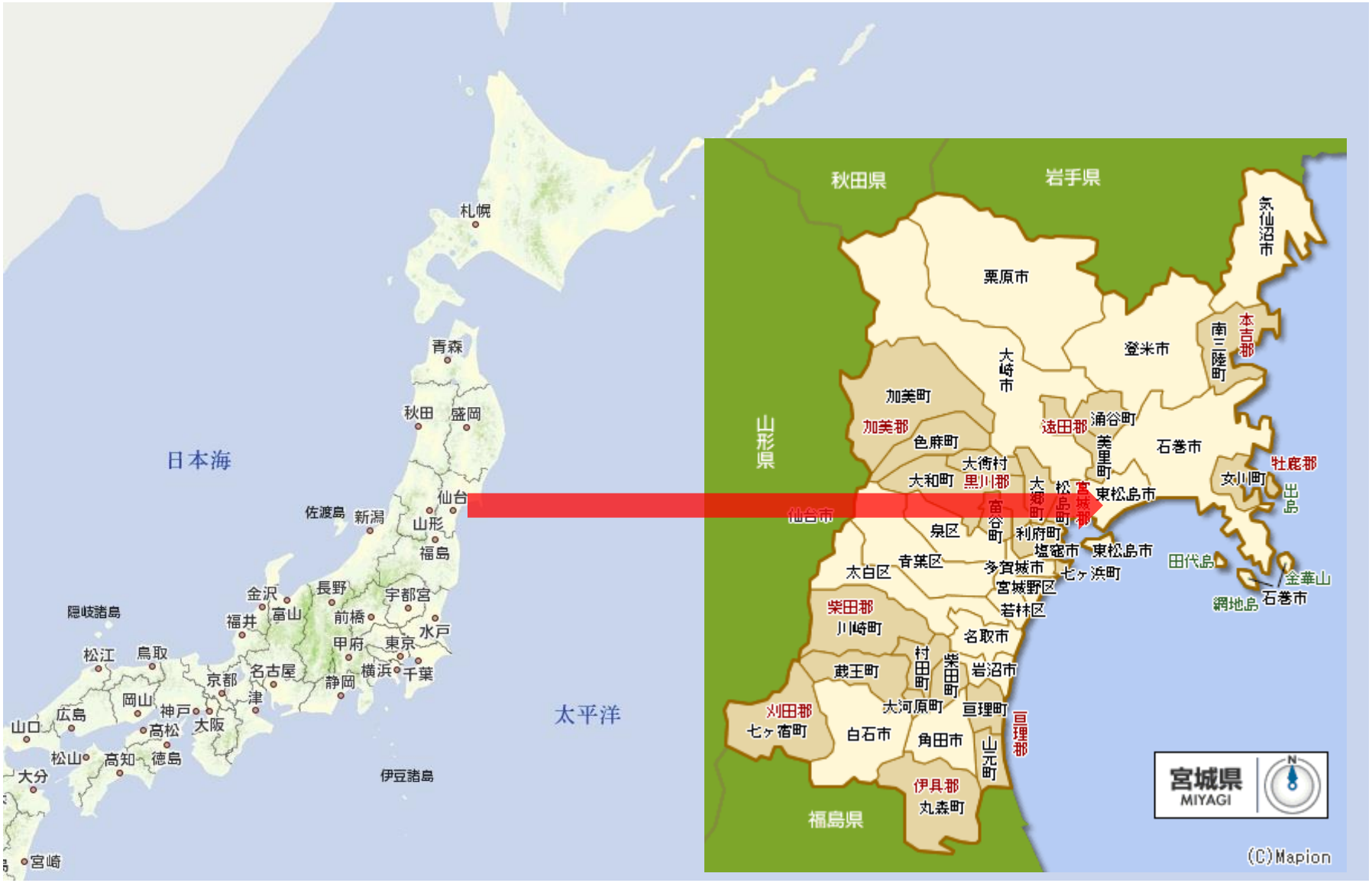
第38期富士見市民大学公開講演会資料

あの時を忘れずに ともに復興へ



平成２８年２月６日
東松島市行政専門員　小野　弘行

東松島市の位置


札幌
青森
秋田
盛岡
日本海
仙台
佐渡島
新潟
山形
福島
金沢
長野
宇都宮
隠岐諸島
福井
富山
前橋
水戸
甲府
東京
松江
鳥取
横浜
千葉
京都
名古屋
静岡
岡山
神戸
津
広島
高松
大阪
山口
松山
高知
徳島
大分
伊豆諸島
太平洋
宮崎
秋田県
岩手県
山形県
福島県
気仙沼市
栗原市
登米市
南三陸町
本吉郡
大崎市
加美町
加美郡
色麻町
遠田郡
涌谷町
美里町
石巻市
牡鹿郡
女川町
大衡村
大和町
黒川郡
大郷町
松島町
宮城郡
東松島市
仙台市
寒谷町
泉区
利府町
塩竈市
東松島市
田代島
出島
金華山
網地島
石巻市
太白区
青葉区
多賀城市
七ヶ浜町
宮城野区
若林区
柴田郡
川崎町
名取市
村田町
柴田町
岩沼市
戎王町
大河原町
亘理町
亘理郡
刈田郡
七ヶ宿町
白石市
角田市
山元町
伊具郡
丸森町
宮城県
MIYAGI
N
(C)Mapion

震災前の東松島市の姿

農　業

イチゴ

キュウリ

メロン

水稲(ササニシキ・ヒトメボレ)

花き(写真はシクラメン)

菜の花
(白菜の種苗生産)

農業は東松島市の基幹産業のひとつでした。水稲が主体で、施設園芸も各地区で盛んに行われていました。イチゴ。キュウリ、メロン、トマトのほか、花きなどが一年を通じて生産され、全国に出荷されていました。

震災前の東松島市の姿

漁　業

ウニ･アワビ

海苔

アサリ(潮干狩り)

牡蠣

東松島市では、ノリ、カキの養殖、ホッキ貝やアワビ、アサリなどの貝類、定置網や刺し網による近海魚の漁などが行われていました。中心となっていたのは、ノリとカキの養殖です。ノリは、皇室献上品に東松島産のノリが何度も選ばれています。カキも東松島産は単年度で出荷する貴重な１年もので、味が濃く、市場で特に高い評価を得ており、どちらもその品質の高さが全国に知られています。

高品質の要因は、生産者の情熱と自然の恵み。仙台湾に鳴瀬川・吉田川の一級河川が注ぐ東松島の豊饒の海が、おいしい海の幸を育んでいました。

震災前の東松島市の姿

観光・交流等

矢本海浜緑地公園

奥松島体験ネットワーク

ウォーキングトレイル

嵯峨渓遊覧船

航空祭(ブルーインパルス)

東松島市は、海、山、川の自然がそろい、それぞれがすばらしい景観を形成しています。特に、海水浴や潮干狩り、遊覧船、釣りなどのマリンレジャーが楽しめる場が豊富でした。

また、航空自衛隊松島基地では、毎年夏に航空祭が開催されていたほか、ブルーインパルスの展示飛行などを目当てに、全国から航空ファンが訪れていました。

東日本大震災前、東松島市では・・・

・平成15年7月26日発生「宮城県北部連続地震」を教訓に

・市内全域に自主防災組織の立ち上げ

・地域防災計画の災害対応マニュアルに基づく発災型訓練・啓発活動

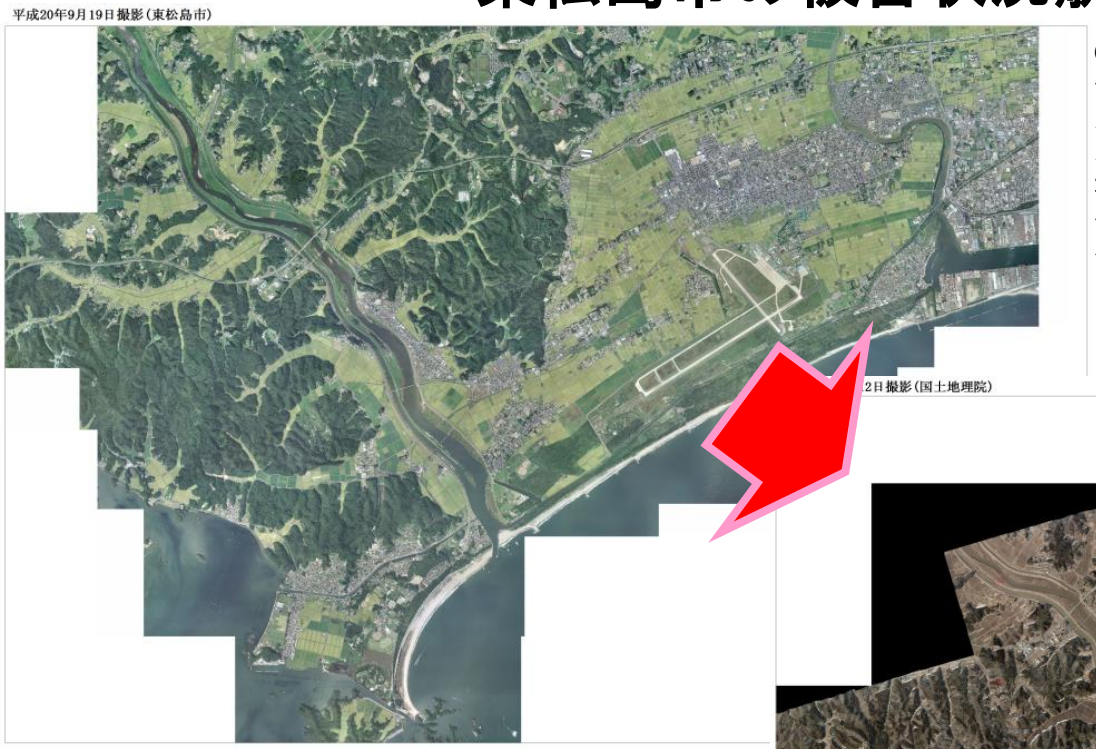
・防災マップの作成と地域説明・全戸配布

・地域防災倉庫の整備(食糧等の備蓄)

来るべき宮城県沖地震への備えを・・・

平成23年3月11日、東日本大震災の発生

東松島市の被害状況航空写真

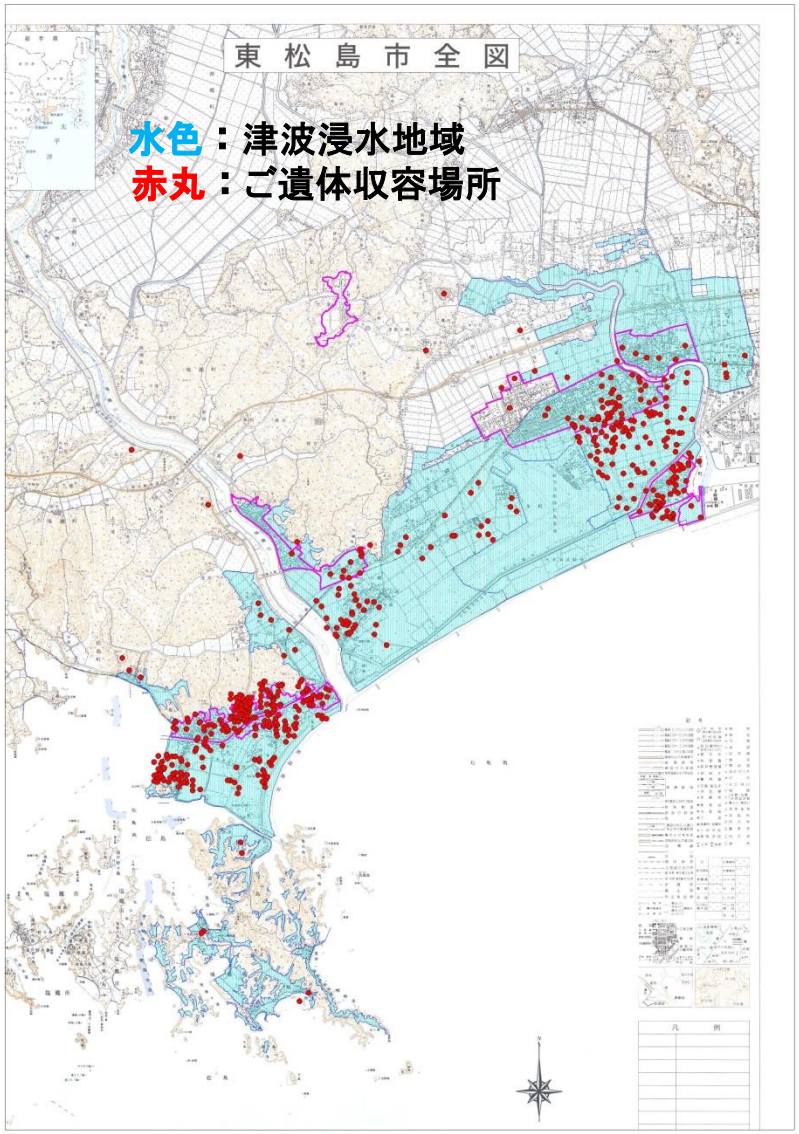


❶地震の規模等
発生日時　平成２３年３月１１日（金）１４時４６分１８．１秒
震央地名　　三陸沖　牡鹿半島の東　約１３０km
震源の深さ　２４km
規模　マグニチュード９．０
本市震度　　震度６強　　県北　震度７
津波　野蒜海岸　浸水高　１０．３５m
　　大曲浜　　〃　　５．７７m
●浸水面積
東松島市全体面積１０２km²のうち３７km²浸水（３６%）
内住宅用地（市街地）１２km²のうち８km²浸水（６５%）

赤丸内が津波の被害が甚大だった箇所

撮影:国土地理院

浸水地域は市街地の65%
全国の被災市町村中最大



東松島市の被害状況

●人的被害（東松島市民）
- 死 者　　１，１１０人　（H.28.2.1現在）
- 行方不明者　　２４人
- 計　　１，１３４人（全住民の約３％）

●家屋被害
- 全壊世帯　　５，５１３棟
- 大規模半壊　３，０６０棟
- 半壊世帯　　２，５００棟
- 計　　１１，０７３棟
  （全世帯の約７３％）

●避難者（最大）１５，１８５人
●避難所（延べ）　　１１８箇所
●浸水農地面積１，４６５ha(43.7%)
●全体農地面積３，３４９ha

市内の被災の様子

JR仙石線の被害と市街地の浸水の様子

災害時のリーダーの決断と責任

災害対策本部、本部長(東松島市長)の運営・行動

①トップの基本姿勢(初動時の対応)

・初動対応はトップダウン、復興まちづくりはボトムアップ

・災害対策本部から基本的に離れない

・全ての情報を関係機関が共有すること

・責任を取る覚悟を持ち、速やかな決断と指示

・関係機関と行政の密接なる連携

・被害全体像の把握(今後の対応「復旧・復興」)の方向性を決断)

(上空からの視察により、仮設住宅建設戸数、建設個所、がれき置き場所、仮埋葬場所(土葬への対応)、集団移転による新しいまちづくりを決断)

・自ら市民へ防災無線のマイクで本部の情報提供と協力を要請

②初動対応が市民・国・県・関係機関・メディア等から信頼され、展開される復興へ応援される自治体を目指した。

●国(内閣府、財務省、国交省、防衛省等)へ毎日の情報提供と要請と調整並びに関係国会議員、全国市長会への要請

●大規模災害時に適用になる激甚災害法、災害救助法、被災者生活再建支援法の運用と解釈がこれまで発生したどの災害にも当てはまらないため、弾力的な運用と法改正の要請

①仮設住宅の入居期間延長、生活再建支援金の申請期日の大幅延長、民間アパート等の仮設住宅対応、住宅応急修理制度、被災判定方法等

②被災者対応に要する経費の確保と23年度地方税の課税ができないため、平成23年度分地方交付税、特別交付税を前倒しで国に交付要請

③防災関係機関が一同に介し、災害対策本部に於いて、すべての情報を共有し連携して対応

・課題を翌日に持ち越さない素早い対応が求められた。
・何よりも全ての情報を共有し、関係機関が一丸となり連携を取らなければ対応が不可

(災害対策本部構成関係機関)

・国土交通省(リエゾン・TEC-FORCE)
・陸海空自衛隊・警察・広域消防・市消防団
・東北電力・NTT・水道企業団・市建設業協会

④毎月の市役所組織の再編と人事異動

・災害規模の大きさ、対応の進捗度合、各種制度の運用に合わせた組織の再編と人事異動が必要となった。(被災後1カ月後に復旧・復興指針発表)

発災直後の災害対策本部（情報把握・迅速な決断と指示）

災害対策本部(6月18日まで100日間設置)

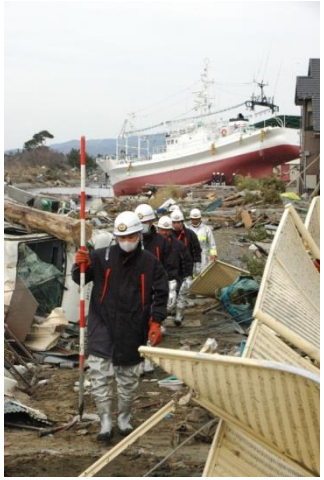
本部では、防災関係機関の代表等約100人が「全ての情報を共有」の上、本部長の指示の元、「行政と連携」して活動しました。

関係機関が連携して行方不明者・遺体捜索

遺体捜索から仮安置までの対応

ご遺体の仮埋葬者(土葬)数　369体

『東日本大震災消防団の活動について』



消防団車両の被害状況

殉職団員８人　被災車両１０台

福祉施設（保育所や老人介護施設等）の被害

野蒜保育所

特別養護老人ホーム不老園

■市立保育所・・・10保育所中。7保育所が津波被害(4保育所全壊)
■保育所児童の犠牲者・・・11人(保護者が迎えにきた後の犠牲)
■震災遺児80人・震災孤児4人

○特別養護老人ホーム・・・3施設中、2施設が津波被害(全壊1施設)
※1施設が現地再建済、全壊の1施設は高台移転(H29.10開所予定)
○認知症高齢者グループホーム・・・5施設中、4施設が津波被害(全壊2施設)
※1施設移転、現地再建2施設で3施設再開、1施設が高台移転(H29.10開所予定)
○デイサービンセンター・・・9施設が津波被害。8施設が再開し、1施設は高台移転(H29.10開所予定)

福祉施設の被害の様子

牛網保育所の被害状況

野蒜保育所の被害状況

特別養護老人ホーム不老園の被害状況

大曲浜保育所の被害状況

学校教育施設の被害

鳴瀬第二中学校

野蒜小学校

浜市小学校

●市内小学校10校中、4校浸水被害
内３校は統合移転、１校は現地復旧

●市内中学校　4校中、2校浸水被害
内１校は統合移転、他１校は体育館建替の上、現地復旧

●児童・生徒・園児合計３３名が犠牲に
(下校後や保護者引き渡し後に犠牲)

小学校・中学校の被害状況

壊滅的な被害を受けた東松島市において大きな役割を果たしたのは地域の「絆」

東松島の自治の市民力が災害時に機能

自助

共助

公助

震災前から築き上げてきた地域分権型の市民協働のまちづくり

市民との協働により運営された避難所

避難所自主運営と物資の提供・供給

避難所開設の状況

一般避難所
公共施設・集会所
69箇所

福祉避難所
福祉施設・病院
20箇所

1日の最大は91箇所（延べ118箇所）
1日あたりの最大避難者数15,163人
3/11～8/31（延べ557,790人）

学校避難所
小中学校・高校
14箇所

市外避難所
他自治体借受施設
8箇所

その他避難所
民間施設・寺社
7箇所

避難所の運営

防災マニュアルでは　職員を常駐させて運営

これまでの想定最大規模は30～40箇所

↓

甚大な被害により避難所数が著しく多く
職員対応が物理的に不可能であった

↓

避難所ごとに代表者を定めて自主運営

避難所の自主運営

平成18年度から市民協働推進に取り組んでいたこともあり、多くの避難所で比較的混乱なく運営することができた。

【自主運営の例】

避難所本部

基本ルールを決め
掲示しみんなで協力

代表者(自治会・自主防)

■副代表
□食糧責任者
□物資責任者
□環境責任者など

施設管理者
(学校・福祉施設・市民センター等)

施設・設備を提供し
施設管理面から
避難所運営を支援

連携
協力

調整
解決

市災害対策本部

□食糧
□燃料
□支援物資
□体調不良者
□環境改善
□その他の課題
□情報の提供
など

役割分担
と協力

□食事等の配付
□清掃や環境改善
□支援物資配付
□子どもやお年寄りへの配慮

「東松島方式による震災がれきのリサイクル」

～被災者を中心とした市民の雇用約800人を実現～

震災ガレキ発生量109万8000ｔ
（東松島市で発生する一般廃棄物**１１０年分**）

全体の約97%をリサイクル

①被災した家屋等は、現場分別により１４品目に分別

②可搬型の建設機械等を活用した一次処理作業

③徹底した手作業により１９品目に分別による最終処理

「混ぜれば“ごみ”、分ければ“資源”」

産学公民（地元建設業協会+東北大学等+東松島市+市民）連携によるこの取組みは、事前の準備により、世界中の各地域で、十分に実現できる取組みです。

宮城県が受託した震災廃棄物の処理単価

	事業費（百万円）	処理量（千トン）			処理単価（1トン当たり万円）
		がれき	土砂	計	
気仙沼市	113,893	1,138	839	1,977	5.8
南三陸町	32,982	556	167	723	4.6
石巻市	194,230	3,589	736	4,326	4.5
女川町	17,297	577	0	577	3.0
東松島市	58,067	1,098	2,161	3,259	1.8
塩釜市	15,863	239	10	249	6.4
七ケ浜町	16,688	228	304	532	3.1
多賀城市	15,222	242	108	350	4.3
名取市	31,799	741	222	963	3.3
岩沼市	25,860	473	154	627	4.1
亘理町	47,876	495	361	856	5.6
山元町	43,888	784	856	1,641	2.7
計	613,665	10,160	5,919	16,079	3.8

〔注〕処理量は小数点第１位を四捨五入しているため、合計が合わないことがある

出展：河北新報（2014.7.6）より

コスト低減＋被災者雇用＋リサイクル

震災がれき発生量

木材・木くず	３７万１，０００トン
混合ごみ	７万９，０００トン
コンクリート殻	４０万４，０００トン
アスファルト殻	３万４，０００トン
金属類	２万５，０００トン
不燃物混合類	１８万５，０００トン
合計	**１０９万8,000トン**

リサイクル（計画）量

１０７万0,000トン

発生量－リサイクル量
＝２万８，０００トン（焼却量）

リサイクル率　約９７.２％

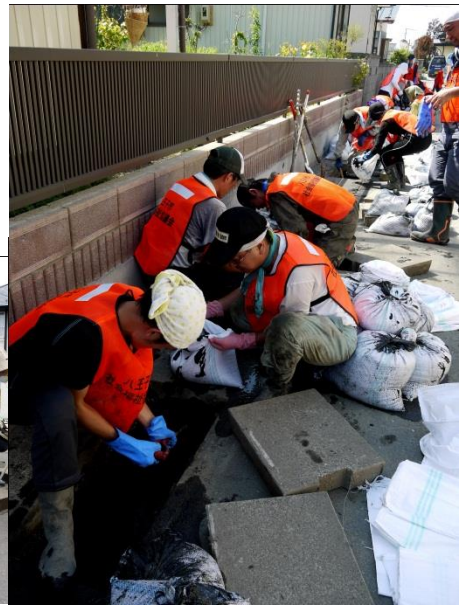
２３～２５年度の処理コスト

東松島市の処理費用３年間で　約５８０億円
当初の想定標準処理費　約７３０億円

約１５０億円の縮減効果

全国からのボランティア支援

全国や海外からのボランティア支援に感謝！



富士見市の皆さん!!
ご支援ありがとうございます!!

消防車両の寄贈

富士見市消防団による行方不明者捜索活動支援

富士見市民皆様のボランティア支援

写真提供：富士見市役所

日本は世界有数の地震国

●地震の種類

・太平洋プレート
・北米プレート
・フィリピン海プレート
・ユーラシアプレート

・海溝型地震（4つのプレート）

※陸側プレートの下に太平洋プレート及びフィリピン海プレートが沈み込み、蓄積されたひずみに限界が生じ、解消するときに発生する地震

・東松島市がこれまで経験した「海溝型」地震
（昭和53年6月　宮城県沖地震　震度5）
（平成23年3月　東日本大震災　震度7）

・活断層（内陸型）型地震（約2，000断層）

※陸側のプレート内部での断層運動により発生する地震(直下型)
・東松島市がこれまで経験した「内陸型」地震
（平成15年7月、宮城県北部連続地震　(震度6強1回，6弱2回）
震源地は東松島市内、深さ約12Km
（平成20年6月、岩手・宮城内陸地震　(震度6強）
震源地は岩手県内陸南部、深さ約8Km

東日本大震災を経験した東松島市は!!

～来るべき次の災害にどう備えるか？～

【自治体としての危機管理 】

- 1.防災・減災による災害に強いまちづくり
- 2.防災知識の普及
- 3.自主防災組織の更なる育成強化
- 4.防災拠点施設等の整備
- 5.相互応援体制の整備
- 6.生活物資等の確保

1.防災・減災による災害に強いまちづくり（東松島市復興まちづくり計画）

（1）防災・減災型都市構造の構築

・命を守り安全で住みやすい市街地、住宅地の整備（集団移転等）

・海岸堤防、内陸堤防、嵩上げ道路等、多重防御施設の構築

・避難場所、避難構造物、避難路の整備確保

（2）防災自立都市の形成

・防災計画や防災組織・機能の見直し、防災教育・訓練の徹底による防災・減災体制の強化

・エネルギー・食糧等の自給率の向上、「環境未来都市指定」による自然エネルギー自給率120%を目標

・他地域との災害支援ネットワークづくり

2.防災知識の普及

（1）市職員、学校教職員及び児童生徒に対する教育

・職員、教職員＝各種研修会開催を通しての教育（防災対策知識、災害対策関連法令、動員体制と任務、発災時に具体的に取るべき行動等）

・児童生徒 ＝地域の実情を踏まえ、様々な災害を想定した防災教育を「地域と連携」して実施し、発生時に自主的に行動できることの学習

・「小学校・中学校・高等学校」の連携

（2）市民に対する防災知識の普及

・市民防災の日の実施＝毎月11日を「市民防災の日」と定め、避難所の確認、非常持出品など我家で出来る防災の確認を実施し、市民の防災意識の向上を図っている

・防災訓練等の実施＝自主防災組織単位毎及び市の総合的防災訓練を防災関連機関と連携しながら実施し、各々の役割の再確認と命を守る行動訓練の実施

（3）市民の取り組み

・過去の災害での教訓の伝承、さらに「自助、共助」の意識の高揚と非常時に対応できる食糧・飲料水等の備蓄

3.自主防災組織の更なる育成

（1）「自助」・「共助」・「公助」による協働

・地域災害対策本部の設置、隣接地域との相互協力、市本部との連携

・地域が主体となった防災活動を展開できるよう地域防災力の強化

（2）自主防災組織への支援及び指導 (82防災組織)

・活動助成補助金の支給、訓練、研修会への人材派遣

「東松島市自主防災組織防災力強化補助金」 24年～28年

・組織リーダーの養成

・多様な世代及び女性の参画

（3）自主防災組織の役割

・平常時＝地域内の防災知識の普及、防災訓練の実施、防災用資機材の整備・点検及び要配慮者等の把握と日頃から信頼関係の構築

・災害発生時＝地域内の情報収集と伝達、救出及び救護活動（要配慮者）、避難誘導、避難所の開設及び運営の支援、食糧、救援物資の配布、給水活動の協力等

4.防災拠点の整備

（1）防災関係機関との円滑な対応のための拠点整備

・大規模災害発生時の本部機能代替性確保のため本部移設の優先順位を市役所以外に定めておく

・警察、消防、自衛隊等の部隊の展開・宿営の拠点施設の整備

（2）支援物資集積場所、臨時ヘリポートの場所の確保

・広域的な応援人員の集結並びに各種資機材及び物資の集積が可能となる救援活動拠点の確保

・臨時ヘリポートの確保、整備

（3）備蓄倉庫の整備

・「市防災備蓄計画」に基づき、被災市民が最低3日間は生き延びられる施設として拠点備蓄倉庫（1箇所）と地域備蓄倉庫（14か所）を整備、更に分散備蓄倉庫（11箇所）の整備を行い自主防災組織に対し、倉庫を活用した物資、資機材等の備蓄の指導。

・地域防災倉庫・・・・市内小・中・高校敷地内に設置済（一次避難所）

・分散備蓄倉庫・・・・市内8地区の市民センター、市役所等に設置

防災拠点備蓄倉庫と地域防災倉庫の整備

震災時WFPより寄贈されたテント倉庫

市内の高台に完成した拠点備蓄倉庫（1,500㎡）

１４箇所に整備済みの地域防災倉庫（１か所あたり30㎡。5000食と5000ﾘｯﾄﾙを配備

地域防災倉庫に配備した食糧・備品類

調理不要食糧（全9種類）

移動かまどとタンク

投光機

プール等の水を
浄化する浄水器

毛布・おむつ等
の生活用品

浄水機の取り扱い
説明会

復興に向けて　東松島市一心

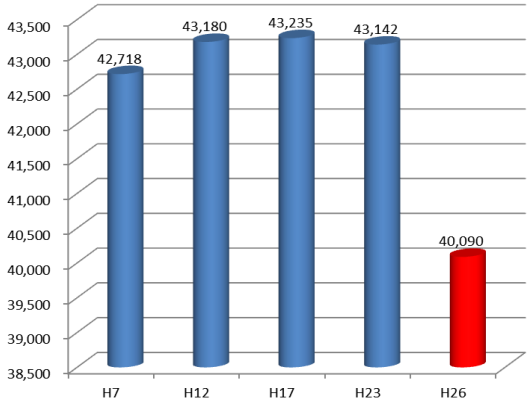
復興に向けて　つづく

震災前と震災後の人口・世帯数の推移（地区別）

	震災前 23.2		現在 26.4		増減	
地区名	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数
矢本東	6,946	2,738	6,587	2,676	▲359	▲62
矢本西	7,922	2,860	7,873	3,007	▲49	147
大 曲	7,070	2,416	5,973	2,261	▲1,097	▲155
赤 井	7,394	2,661	7,634	2,873	240	212
大 塩	2,833	907	3,860	1,350	1,027	443
小 野	5,396	1,693	5,780	1,976	384	283
野 蒜	4,615	1,545	1,756	608	▲2,859	▲937
宮 戸	966	260	627	211	▲339	▲49
合計	43,142	15,080	40,090	14,962	▲3,052	▲118

※平成26年12月末
　人口　40，201人　　世帯数　15，123戸（震災前を越えた）

- 震災により約3，000人の人口減少（人口減少の加速）
- 震災後、世帯分離等により世帯数は増加
- 65歳以上の人口は約10，000人（全人口の25%）
  ※うち介護が必要な方は約1，900人
  （そのうち85歳以上が半数を占める）
  ※10年後には65歳以上が33～35%に増加
- 2015年度実施の国勢調査への慎重な対応が不可欠
- 2040年には人口が33，000人まで減少するとの予測



仮設住宅への現在入居の現状

●応急仮設住宅　※H28.1.15現在

入居戸数　　659戸

（当初建設戸数　1，753戸　対当初比　37．6%）

入居者数　　1，651人　①

●みなし仮設（民間賃貸住宅借上）住宅　※H27.12.31現在

入居戸数　　468戸

（当初入居戸数　　950戸　対当初比　49．3%）

入居者数　　1，161人　②

全入居者計　2，812人　（①＋②）

※　全市民の約　7．0%（対H26.4.1住基人口）

カラフルモンキー　おのくん

将来にわたって安全な都市　（防災集団移転事業位置図）

津波被災エリアの世帯を市内７か所の集団移転地(内陸部・高台)へ集団移転

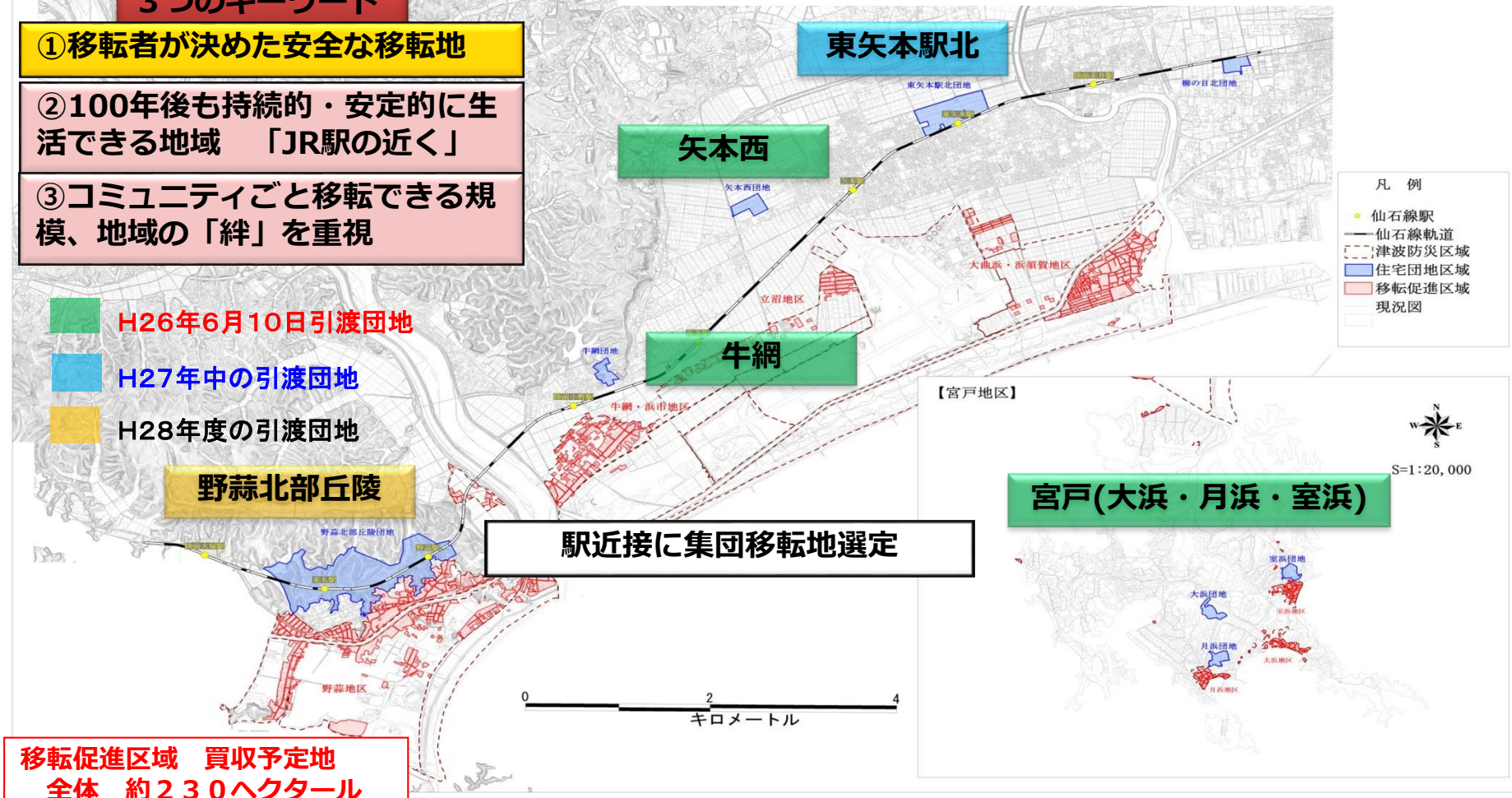
※防災集団移転住宅敷地（7団地）※災害公営住宅併設　　717区画
災害公営住宅（16団地）　　1，010戸
〔防集団地（7団地）571戸 ＋ 災害公営単独団地（9団地）439戸〕

３つのキーワード

①移転者が決めた安全な移転地

②100年後も持続的・安定的に生活できる地域　「JR駅の近く」

③コミュニティごと移転できる規模、地域の「絆」を重視



移転促進区域　買収予定地
全体　約２３０ヘクタール

防災集団移転・生活再建の復興状況

1.集団移転地の整備（防災集団移転促進事業による整備団地）

① 7団地　717戸の防災集団移転事業を整備。うち、6団地439戸（61.2%）整備済　(H28.1．1現在)
② うち160戸は移転世帯が決定し、128戸が居住済み（約77%）。（H27年7月現在）

完成団地

矢本西　87区画

牛網　45区画

室浜　6区画

月浜　18区画

大浜　10区画

2．災害公営住宅の整備

① 全体で1,010戸　の災害公営住宅を整備。
② うち604戸が完成。 完成率　59.8%　(H28.1.1時点)
③ 移転協議会等の住民組織との綿密な意向調整により、完成後の速やかな入居を進める。

集合住宅

戸建住宅

防災集団移転・生活再建の復興状況Ⅰ

１－１．集団移転地の整備（被災市街地復興土地区画整理事業による整備団地）

① 7団地　717戸の集団移転団地のうち2団地は被災市街地復興土地区画整理事業で整備中。

② 東矢本駅北（あおい）団地（273戸）は、27年4月（97戸）、7月（87戸）、9月（89戸）に引渡。
※集団移転団地整備率：H28．91点　166戸（防集分）＋273戸（区画整理分）＝439戸（61．2%）

防災集団移転・生活再建の復興状況Ⅱ

１－２．集団移転地の整備（被災市街地復興土地区画整理事業による整備団地）

① 丘陵部への移転先整備を実施中の野蒜北部丘陵地区（H28年度宅地引渡予定）。
※平成27年5月30日JR仙石線が全線運転再開（野蒜駅と東名駅は高台に移設）

防災計画　（地域防災の推進）　事業例

災害時に必要なコミュニティ「自治協働のまちづくり」

農村部の自治組織が沿岸部を共助

自主防災組織が支援協定

東松島市小野地域 沿岸部と内陸部が共助

長面農地の沈下深刻

富士沼の塩分高濃度

工業団地企業野蒜地区協ども 避難施設など提供

市内自治組織間で共助協定

復興（集団移転）の話し合いも実施

平成21年度に公民館（行政運営）を市民センター（地域運営）へ移行〔市民（自治）協働のまちづくりに移行〕（地域での自主防災活動が機能）

市民（自治）協働のまちづくりの成果

環境未来都市に選定された自治体(地域)

全国で11地域

被災地域以外（5件）

横浜市、富山市、北九州市、千葉県柏市、北海道下川町

※被災地以外の選定都市は、従前より「環境モデル都市」、「スマートコミュニティ実証事業（経産省）」等の取り組みを行っており、取組企業の参加も含め推進基盤がある

被災地（6件）

東松島市、岩沼市、大船渡市・陸前高田市・住田町、釜石市、南相馬市、新地町

① 釜石市は新日鉄の企業基盤があり、北九州市との連携を含め取り組み易い
② 岩沼市は仙台空港の民営化による活用、医療周辺産業で先行的取り組みがある
③ 南相馬市は原発被害により、国の手厚い支援が期待できる

差別化ポイントは何か
有効な地域資源は何か

先進モデルとしての進め方

環境未来都市構想

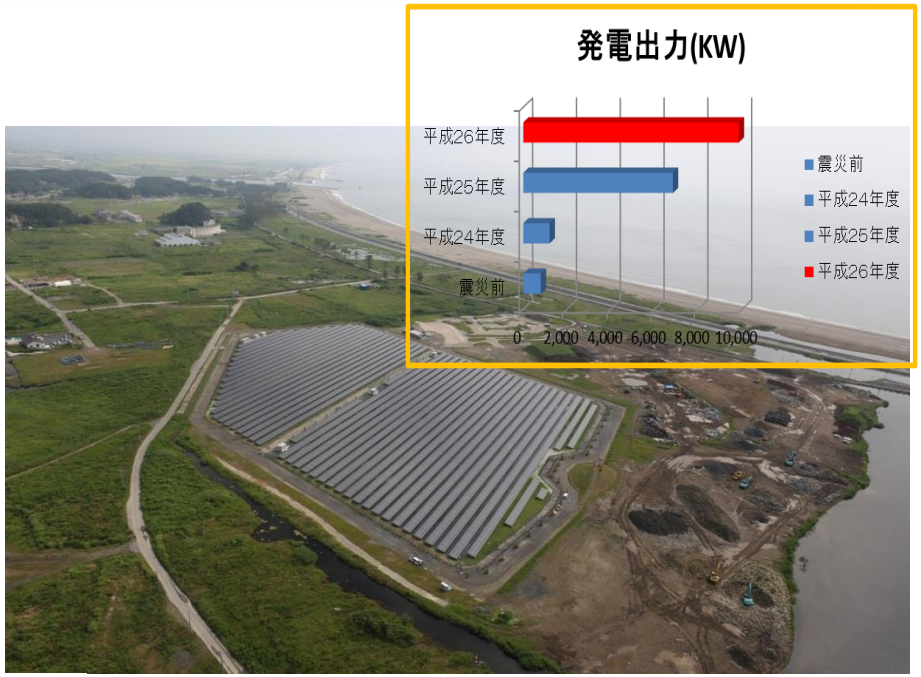
1．環境関連施策の推進

① 東松島市地域エネルギービジョンの策定 (平成24年)

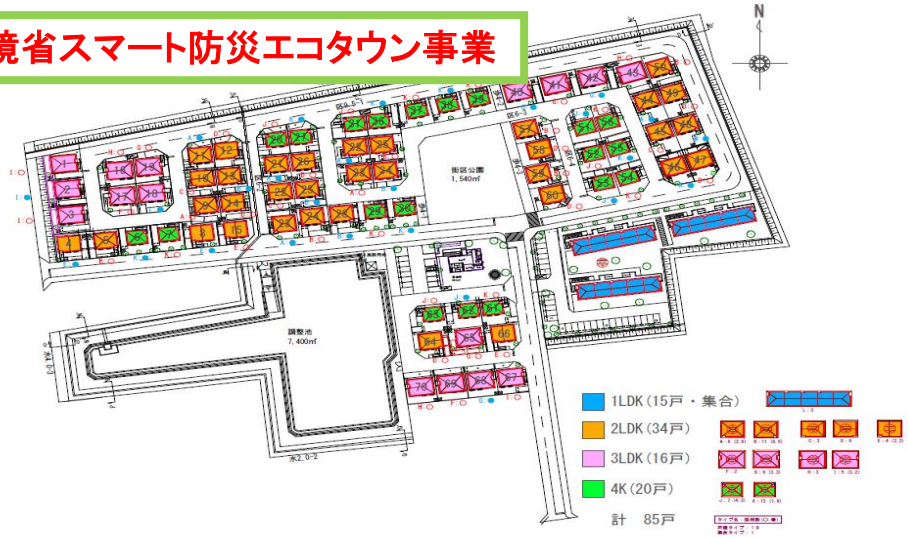
〇大震災の経験を踏まえ、太陽光など再生可能エネルギーの導入により、地域エネルギーの生産と安全で安定的な供給を目指していく

② 再生可能エネルギーの普及拡大施策

〇 中断していたエネルギー補助施策を再編
〇 太陽光・蓄電池・HEMS・コジェネ等の補助制度を実施 → 年間約350件の導入を実現



環境省スマート防災エコタウン事業



③ 特定供給による東松島スマート防災エコタウン事業 (環境省モデル事業 2014)

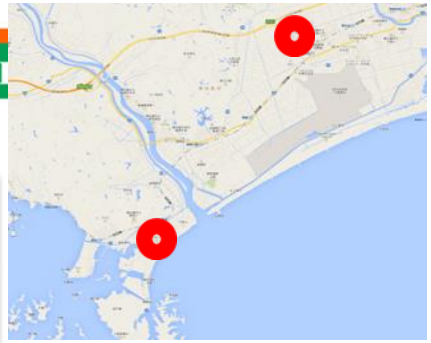
●災害公営住宅と周辺医療施設に自立型のエネルギー設備を導入
●災害時にも50%以上の電源が地産地消で供給できるモデル事業。
●自営線を使う戸建のシステムは日本初。

東松島市

Higashi

【環境未来都市構想の先導事業】

「奥松島“絆”ソーラーパーク」津波浸水エリア初
「東松島“絆”カーポートソーラ」公共施設屋根貸し



『奥松島「絆」ソーラーパーク』

①事 業 者　三井物産株式会社（現在は㈱楽天信託）
②計 画 地　東松島市奥松島公園跡地の一部 (約47,000㎡)
③連携容量　**1,９９０Kw (約２メガワット)**
④発 電 量　年間　約２１０万Kwh
(一般家庭約600世帯分の年間使用電力量に相当)

“電気だけでなく、希望も生み出す”
メガソーラーとして、
フィナンシャルタイムス誌に掲載され、
世界中に配信されました。

『東松島「絆」カーポートソーラ』

①事 業 者　三井物産株式会社（現在は㈱楽天信託）
②計画地等
・コミュニティセンター前駐車場　約１８０Kw
・鷹来の森運動公園駐車場　約　６３Kw
・大塩市民センター駐車場　約　２６Kw
合計　約２６９Kwh

カーポートソーラーは、発電事業に加え、非常時災害時に分散型発電所として市民に電力の供給が可能になり、かつ、カーポート施設が合わせて提供されるため、２重の効果を創出する取組みです。

より安心・安全な高台へ福祉施設の建設

特別老人ホーム　不老園の被害

グループホーム　やすらぎの被害

特別養護老人ホーム　不老園
鳴瀬ディサービスセンター･介護支援センター
グループホーム　やすらぎ

平成２９年度再建予定

野蒜北部丘陵地区集団移転地へ整備

自然と共生し、地域とともに子ども達を育む学校づくりを目指して

東松島市版「森の学校」推進方針

東松島市鳴瀬地区は、東日本大震災の津波被害により甚大な被害を受け、浜市小学校、野蒜小学校、鳴瀬第二中学校の3校が現地再建不可能となりました。
子ども達の教育環境の復旧・復興を最優先課題と捉え、合わせて子ども達の心のケア、命の教育、そして故郷の再生に資する人材の育成を目指して、「森の学校」をコンセプトとした学校づくりを推進します。

[H24年10月方針策定/東松島市教育委員会]

復興事業の推進に向けて

―「鎮魂」と多くの支援への「感謝」を込めて
市民と共に進める（市民力による）復興まちづくり―

・避難所を経て仮設住宅等、そして今、集団移転団地、災害公営住宅へ
・復興まちづくり計画の実現

①復興に必要となる膨大な予算の執行

震災前一般会計決算額	H22:	153億円
震災後一般会計決算額	H23:	540億円
	H24:	1，276億円
	H25:	1，088億円
	H26:	789億円

②マンパワーの確保

プロパー職員　329人　＋　他自治体派遣職員等※　136人　〔平成２７年４月現在〕
※他自治体派遣職員　54名＋他自治体任期付採用　19名＋復興庁採用　5名
＋ 市任期付採用　36名＋再任用職員22名　計136名　合計　４６５名体制

③行政経営の基盤となる自主財源（地方税収入）の復活

・H23:△45%（H22対比）、H24:△22%（同）（復興との相関関係：住宅再建・産業振興・雇用創出等）H25:△5%（同）、H26: ＋2%（同）

結語

- ～ ３．１１大震災に立ち向かう
- 「あきらめない心、再び」～

鎮魂

感謝

- あの日を忘れずともに未来へ
- ～東松島一心～

- ご静聴ありがとうございました。

東松島市と富士見市との交流

富士見市自治振興部安心安全課

ボランティアバスパック

平成23年4月29日～30日　職員（48人）
5月13日～14日　市民・消防団・職員（71人）
5月27日～28日　市民・商工会青年部・職員（65人）

被災地の子供たちへ笑顔を！プロジェクト

第1回	平
第2回	宅訪問
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	口
第7回	

「東松島市夏祭り」に参加

平成27年8月22日　富士見市特産品販売(梨)
子ども広場(ヨーヨー釣り、駄菓子)
勾玉づくり、輪ゴム鉄砲
エコたわし等の販売

スポーツ交流事業

平成25年8月21日～22日
東松島市復興記念少年野球交流大会に鶴小ニュースカイヤーズが参加

スポーツ交流事業

平成26年1月25日～26日

矢本バレーボール少年団を富士見市に招いて富士見市ジュニアバレーボール連盟の子どもたちと交流試合

スポーツ交流事業

平成27年8月21日～22日
南畑ジュニアバレーボールチームが東松島市を訪問し地元ジュニアバレーボールチームと交流試合

市民団体による交流

平成24年9月4日
グリーンタウンやもと仮設住宅にて鍼灸師・マッサージ師等による健康サポート支援を実施

平成24年9月9日～10日
ひびき工業団地内の仮設住宅集会所にて歯科医師会による歯科衛生等の健康支援事業を実施

市民団体による交流

平成２４年　９月　４日	西みずほ台・針ヶ谷地区社協
平成２４年　９月　９日～１０日	水谷東地区社協
平成２４年１０月１０日～１１日	みずほ台地区民協
平成２５年　３月　９日	ＮＰＯ法人ふじみっこ・夢みらい
平成２５年　６月２２日	（社福）ふじみ野福祉会
平成２５年１０月１５日	食生活改善推進員協議会
平成２６年　９月２０日	（社福）ふじみ野福祉会
平成２７年　９月１９日	（社福）ふじみ野福祉会

市民団体による交流

平成２５年１１月１７日	東日本大震災復興支援 ボランティアグループ 「えがお富士見」
平成２６年　２月　８日	
平成２６年　６月　７日	
平成２６年１０月　４日	
平成２６年１１月２９日	
平成２７年　６月２０日	
平成２７年１１月２８日	

東松島物産販売等

宮城県東松島市
特産品販売所
「えがお富士見」
「えがお富士見」

宮城県
東松島市

塩のり
塩のり
¥525
¥525

東松島市

被災地支援
物産販売コーナー
宮城県東松島市
特産品販売所
東松島市

東松島物産販売等

日付	実施者	会場	内容
平成25年　1月19日	復興支援ボランティア「えがお富士見」	福祉フォーラム	物産販売等
平成25年　2月24日	復興支援ボランティア「えがお富士見」	せきざわ子どもまつり	物産販売等
平成25年　3月　9日～10日	南畑公民館利用者の会	南畑公民館ふれあいまつり	物産販売等
平成25年　4月21日	復興支援ボランティア「えがお富士見」	子どもフェスティバル	物産販売等
平成25年　5月25日～26日	水谷東ふるさとまつり実行委員会	水谷東ふるさとまつり	物産販売等
平成25年　7月13日～14日	水谷東1丁目町会夏まつり実行委員会	水谷東1丁目町会夏まつり	物産販売等
平成25年　8月24日～25日	水谷東3丁目町会夏まつり実行委員会	水谷東3丁目町会夏まつり	物産購入
平成25年　8月31日	復興支援ボランティア「えがお富士見」	榎町夏まつり	写真展示等
平成25年　9月　7日	復興支援ボランティア「えがお富士見」	勝瀬de縁日	物産販売等
平成25年　9月22日	復興支援ボランティア「えがお富士見」	筑波大付属坂戸高校文化祭	物産販売等
平成25年10月13日～14日	水谷東公民館便り編集委員会	水谷東公民館喫茶コーナー	物産販売等
平成25年10月19日	復興支援ボランティア「えがお富士見」	ぱれっと祭り	物産販売等
平成25年10月27日	復興支援ボランティア「えがお富士見」	けんこう祭	物産販売等
平成25年11月　2日～　3日	復興支援ボランティア「えがお富士見」	コープみらいフェスタ	写真展示等
平成26年　1月18日	復興支援ボランティア「えがお富士見」	福祉フォーラム	募金活動等
平成26年　2月23日	復興支援ボランティア「えがお富士見」	せきざわ子どもまつり	募金活動等
平成26年　3月　8日～　9日	南畑公民館利用者の会	南畑公民館ふれあいまつり	物産販売等
平成26年　4月20日	復興支援ボランティア「えがお富士見」	子どもフェスティバル	物産販売等
平成26年　5月17日～18日	復興支援ボランティア「えがお富士見」	鶴瀬公民館まつり	物産販売等
平成26年　5月24日～25日	水谷東ふるさとまつり実行委員会	水谷東ふるさとまつり	物産販売等
平成26年　7月12日～13日	水谷東1丁目町会夏まつり実行委員会	水谷東1丁目町会夏まつり	物産販売等
平成26年　8月　9日～10日	水谷東3丁目町会夏まつり実行委員会	水谷東3丁目町会夏まつり	物産購入
平成26年　9月　6日	復興支援ボランティア「えがお富士見」	勝瀬de縁日	物産販売等
平成26年10月25日	復興支援ボランティア「えがお富士見」	2014　ふじみふるさと祭り	物産販売等
平成29年　1月17日	復興支援ボランティア「えがお富士見」	福祉フォーラム	物産販売等
平成27年　2月23日	復興支援ボランティア「えがお富士見」	せきざわ子どもまつり	物産販売等
平成27年　3月　7日～　8日	南畑公民館利用者の会	南畑公民館ふれあいまつり	物産販売等
平成27年　3月　8日	復興支援ボランティア「えがお富士見」	3.11を忘れないコンサート	物産販売等
平成27年　5月16日～17日	復興支援ボランティア「えがお富士見」	鶴瀬公民館まつり	物産販売等
平成27年　5月23日～24日	水谷東ふるさとまつり実行委員会	水谷東ふるさとまつり	物産販売等
平成27年　6月　8日	復興支援ボランティア「えがお富士見」	難波田城まつり	物産販売等
平成27年　7月11日～12日	水谷東1丁目町会夏まつり実行委員会	水谷東1丁目町会夏まつり	物産販売等
平成27年　9月　5日	復興支援ボランティア「えがお富士見」	勝瀬de縁日	物産販売等
平成27年10月24日	復興支援ボランティア「えがお富士見」	2015　ふじみふるさと祭り	募金活動等

東松島物産販売等

仙台
牛たん
東松島
NO PETS

島市特産品出張販売
『ブルーインパルス』
●グッズ各種●
ワカメ
焼き海苔
牛たんカレー
マスコットキャラクター集合！！
★イート&イ～ナ（宮城県栄松島市）
★うさみん（富士見市社会福祉協議会）
★ふわっぴー（富士見市）
2016
1/24(日)
10:00～17:00
らぽーと富士見
1F 屋内広場
10：30～ / 13：30～
11：15～ / 14：15～
12：15～ / 15：15～
・東松島市の被害
・富士見市と富士
・警察による支援
・消防による支援
・東松島市 ・ 東松島市 ・ (株)奥松島公社 ・ らぽーと富士見
大震災復興支援ボランティア「えがお富士見」

宮城県
東松島市

被災地支援活動応援金

「ボランティアバスパック」、「被災地の子供たちへ笑顔を！プロジェクト」、「市民団体への補助」などは、皆さまからお寄せいただいた被災地支援活動応援金を活用させていただいています。

皆さまのご協力に厚くお礼申し上げます。
継続的な被災地支援活動を行うため、引き続き応援金へのご協力をお願いいたします。

受入合計金額　7,802,009円
支出済金額　　7,309,796円
残　額　　492,213円
（平成27年12月9日現在）

まちづくり寄附（ふるさと納税）

まちづくり寄付の謝礼品に奥松島公社と契約し、生ガキ焼き海苔、牛タンステーキなどをラインアップ。

災害時における相互支援協定

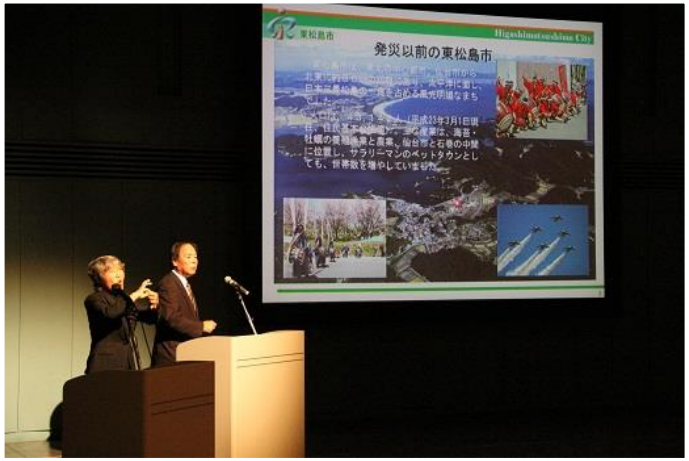
〇食糧、飲料水、生活必需品等の供給
〇職員の派遣及び資機材の提供
〇被災者の一時受け入れ

平成24年5月14日 『災害時における相互支援協定』を締結

職員派遣

平成24年4月1日から9月30日まで（環境課）及び平成24年10月1日から平成25年3月31日まで（防災交通課）職員派遣を実施。（平成25年9月30日まで延長）

富士見市防災シンポジウム



平成24年11月12日実施　基調講演とシンポジウム

阿部東松島市長、齋藤野蒜地区まちづくり協議会長、阿部前消防団長
星野市長、清水会長、池田団長　（コーディネーター　玉野総合コンサルタント小中部長）

ご清聴ありがとうございました。